

# かるがも



第32号

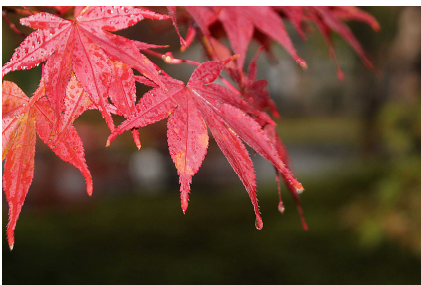
発行所 千葉県子ども病院  
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1  
TEL 043-292-2111  
FAX 043-292-3815  
<http://www.kodomo.umin.jp/>

## 深まりゆく秋に、半年間を振り返って

病院長 伊達裕昭



長く厳しかった残暑もいつの間にか遠のき、病院の中庭に植えられた柿の実が色づき始めて、確実に秋は深まってきました。と同時に、平成24年度ももう半分が過ぎてしまいました。



毎年、年度始めの4月には病院全体の運営に係る1年間の目標を掲げ、職員一同がその実現に向かってそれぞれの仕事に励みます。半年が過ぎて計画の進行状況を見ると、順調に推移している部分もあれば計画通りには遂行できていない部分もあります。残る後半に向けて計画の再確認や軌道修正を行う時期になり、毎年のことではありますが夏休みが終わってしまった受験生のような気持ちで秋を迎えています。

本号ではこの半年間の病院の主な出来事についてお伝えします。

周産期センター棟が新たに増築され、新設した産科が4月から診療を始めたことはすでに前号でお知らせいたしました。まだ対象となる分娩は限られるものの、出生前後の切れ目ない医療提供が可能になり、従来の出生後の搬送リスクや母子分離の問題は確実に解消されています。併せて今後の出生前診断の普及も急務と考えています。しかし残念ながら産科医が少ないため、医療機関からのご紹介を当院が直接、受けることはまだできません。現状では、生後すぐから当院の医療機能を必要とする胎児が出生前診断された場合限り、千葉大学附属病院を通して当院を紹介していただく手順になっています。しばらくはご迷惑をおかけしますがどうかご了承下さい。

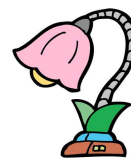


今年の2月末に日本医療機能評価機構の審査員が当院を訪問し、3日間にわたり病院機能評価の審査を行いました。その結果が8月に公表され、当院としては平成14年から継続して3回目の、新たな評価基準での認定を受けることができました。今では全国の多くの病院が受審していますが、10年前には千葉県で2番目、全国の小児専門総合医療施設としては初めての

認定でした。以来10年間、病院の管理運営および診療機能について、現状に留まらず改善に向けての活動を続ける姿勢が評価されていると思います。病院機能をさらに充実させるためには、開院して24年になる院内設備、構造の見直しを避けて通ることはできませんが、これは一朝一夕には解決できません。今後の中長期の計画の中で、県とともに取り組む重要な課題と位置づけています。



震災直後の昨夏と違い目標値こそ設定されませんでした。東京電力管内の今夏の節電期間は7月2日から9月28日まででした。当院でも各部署が責任者を決めて照明やパソコンなどの不要な電力消費の回避に努めた結果、この夏の各月の電気使用量を例年に比べ10～16%削減(新設した周産期センター棟を除いて比較)することができました。原発が停止して、今後も電力供給にはまだ余裕がない状況が日本中で続くことから、秋以降も引き続き病院全体での節電対策を継続するつもりです。



当院では日本動物病院福祉協会の協力をいただき、平成17年から定期的な犬の病棟訪問(アニマルセラピー)を受け入れています。こうした人と動物の絆づくり活動への積極的な参画が評価され、去る9月29日に同協会から当院に対して平成24年度の福祉功労賞(Bustad Award: ビューステッドアワード)が授与されました。病院は「治療の場」ではありますが、入院する子ども達にとっては日々の成長のための大切な「生活の場」でもあります。

長い闘病生活を強いられる子ども達に癒しを与え、生命の尊さを教えてくれる動物たちに何よりも感謝しますが、この受け入れ活動を積極的に支援して下さるボランティアの皆さんや、授業の一環に組み入れ指導に当たられる院内学級の先生の陰の力添えにも、改めてお礼申し上げます。



日々変わることなく、繰り返されているように見える病院の活動ですが、この半年の間だけでもいろいろな出来事がありました。しかし、こうした出来事が目に見える形になって表れるのは、長い期間をかけて変化への取り組みを継続した結果にはかなりません。職員一同は今日も病院の改善に向けて、さまざまな取り組みを続けています。

どうか今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成24年10月